



夏休みが終わり、授業再開。

1カ月近い夏休みが25日(日)に終わり、26日(月)より授業が再開しました。本校は2学期制のために、夏休み明けの始業式はなく、普段通りに学校生活が始まりました。今夏は“10年に1度の暑さ”ということで、その疲れが多少は残っていると思いましたが、いつもの元気な挨拶や友達と楽しそうに会話をしながら登校する姿に触れ、ほっとしました。



夏休み、3年生は「夏を制する者は、受験を制する」の言葉とおり、受験勉強に専念したと思います。その成果はきっとこれからの受験で現れることでしょう。また、1・2年生では、日頃の学校での学びとは異なる、具体的には『能登半島高校生ボランティアワークキャンプ』『学輪IIIDAフィールドスタディー2024』『東北スタディーツアー』『ユース国際チャレンジ in 飯田』などに積極的に参加し、様々な貴重な体験をするとともに、他校の生徒や異年齢の人たちとの交流を深め、新たな気づきや刺激を受けた生徒も多くいたようです。

“宮澤芳重”の思いが込められた天体望遠鏡



飯田高校のシンボルの一つが、本館校舎屋上に設置されている“天文台”です。(ちなみに県内の高校で天文台が設置されているのは、本校も入れて4校のみ)現在の天体望遠鏡は、2代目で平成8年に校舎改築の折に新たに設置されたものです。自分の高校時代にはこの望遠鏡が設置されていました。役目が終わった初代の天体望遠鏡は現在、旧松川東小学校に保存されているということで先日、見に行ってきました。

初代の天体望遠鏡は、松川町(生田)出身の“宮澤芳重(よしじゅう)”が、故郷飯田で若者が学ぶ機会を得られる「郷立大学(飯田大学)」の設置を構想し、そのために上京し、日雇い労働で得た収入を「飯田高校



への天体望遠鏡の設置」等に注ぎ、実現したものです。現在は山間地の廃校にひっそりと保存されていますが、宮澤芳重の故郷の教育に対する熱い思いが込められたものであると思うと、とても神々しく、威厳を感じました。

